



定礼と国保

客員 相談役 藤井 基之

日本は国民の誰もが法律で定められた医療保険制度である健保や国保に加入しており、誰でも、いつでも、どこでも、比較的安い医療費で、病院や診療所で医療を受けることができます。

このような国民皆保険体制を取っている国は世界でも少なく、とても優れた制度であるとWHO（世界保健機関）にも評価されています。超大国米国でも国民皆保険体制は取られておらず、オバマ氏と民主党次期大統領候補選を激しく争ったクリントン女史は、以前から米国での国民皆保険の実現を唱えていました。わが国で国民皆保険体制が敷かれたのは昭和三十五年のことですが、その制度の基礎となったのは、実は太平洋戦争後、GHQ（連合軍最高司令部）の招きによって米国から来日した「社会保障制度調査団」の勧告書でした。母国でも実施されていなかった国民皆保険を敗戦国日本で実現しよう

としたともいえるわけで、現憲法の第九条、戦争放棄の規定もそうですが、マッカーサーは戦争で何もかも失った日本で、彼の夢の実現を図ろうとしたのかもしれない。

それはさておき「健康保険」とは、病気がちな人も健康な人も相互にお金（保険料）を出し合ってプールしておき、いざ病気になるったらそのプールしたお金から医療費を支払ってもらおうという「相互扶助」の考え方によるものですが、わが国にも地域によっては、このような考え方がずいぶん昔からあったようです。

特に福岡県の宗像（むなかた）という地域では、江戸時代（一八三五年頃）から「定礼」（「常礼」ともいわれる）という仕組みがあったそうです。農民は凶作になれば医者にもかかれない。そこで医師と農民達が話し合って、農民達がそれぞれの収入に応じて米などを医師に前もって渡して医

師の収入を保証しておき、病気になったときは支払いを気にせず医者にかかれるようにする、という仕組みだったそうです。毎年、年の暮れになると村人が集まって医師と交渉し、一年間にかかる治療費の総額に相当する米を村民それぞれの家の資産、人数等にしたがって各戸に割り当てる。医家は、その米を売って生活費に当てていたのだそうです。

明治から大正にかけて村の定礼医として四十年余働いていた高村直嗣という医師は、約一八〇戸の家から、年間一八〇俵ほどの米を「定礼」として受けていたそうです。米一八〇俵という現在の米価では一〇kg六千円と

して、年収六百万円ほどになりますが、経費など差し引くと、当時としては「粟飯」ばかり食べているという生活だったそうです（今日、時折報道される医師の収入とは雲泥の差ですね）。この高村医師は「患者に対する態度は実に親切丁寧で、昼夜を問わず、風雨寒暑をいとわず、一切を投げ打って患者のために尽くされる人だった」ということで、現在でも町の街道筋に顕彰碑がたっているそうです。

国民皆保険の柱の一つである国民健康保険制度は昭和十三年に創設されましたが、宗像の定礼は制度創設の際の大きな参考となったということです。

ふじい もとゆき 藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 1回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ
<http://www.mfujii.gr.jp/>

■その他 薬学博士・薬剤師

■私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会造りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

■活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

■経歴

- 昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
- 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
- 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
- 昭和44年 厚生省入省
- 平成9年 厚生省退官
- 平成9年 財団法人 ヒューマンサイエンス 振興財団専務理事
- 平成12年 日本薬剤師連盟副会長
社団法人 日本薬剤師会常務理事
- 平成13年 参議院議員
- 平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月~平成17年11月)
- 平成19年 日本薬剤師連盟顧問

■その他

- 昭和大学薬学部 客員教授
- 共立薬科大学 客員教授
- 東邦大学薬学部 客員教授
- 新潟薬科大学 客員教授
- 千葉大学薬学部 非常勤講師
- 京都薬科大学 客員教授